

赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画 策定検討会

第8回資料

令和6年11月18日

北区拠点まちづくり担当部拠点まちづくり担当課

第8回検討会のプログラムについて

1. 前回検討会の振り返りと第8回検討会の進め方について P.2

(1) 第7回検討会でのご意見 P.2

(2) 本日の進め方 P.3

2. 前回グループワークの振り返りとまちづくり基本計画のまとめ方

(1) まちづくりの目標 P.5

(2) まちづくりの基本方針 P.8

(3) まちの骨格形成の考え方 P.17

(4) 重点区域におけるまちづくりの進め方 P.21

(5) まちづくりの実現に向けて P.22

3. シナリオ別評価表（ミッション1）について P.24

4. 今後の進め方等について P.25

1. 前回検討会の振り返りと第8回検討会の進め方について

(1) 第7回検討会でのご意見

前回のまとめはかなり幅広く色々な意見が出たが、今回より具体的に場所や機能を示すということで、どのあたりに皆さんの関心があるかということが明確になったという印象。



1の震災・水害に強い市街地の形成に関して皆さんの関心が強かったところですが、この①の古い木造の建物が密集していて火災や延焼の危険があるというのと、③の幅員が狭く小学校の緊急車両の通行ができるのか心配というのは、裏返しなんだという意見があった。これは具体化していく一つのプロセスだと思った。例えば、①について、みんな勝手に建替えてくださいと、それをどう促進するかを考えることもできるし、でも③を考えると、道を広げるためには、ある程度まとまった建替えをしていかななくてはいけない。そんなことが、次の可能性として出てきたと思う。

今回の議論は、次のもう一歩先の具体的な内容に落とし込むための大事な時間だったと感じている。



この重点区域の整備計画や実現手法というのは、来年度から検討することになり、たぶんまた、色々なシナリオが出てきて検討をするのだと思うが、その時の共通的な基盤となる議論が今日はできたと思う。

皆さんが最後議論されていたような、望ましいまちの将来像を基本計画の区域全体で実現していく時に、重点区域でやるのが、それを実現するためのツボというか、重点と言うからにはそこを頑張ることによって、その効果が周りにも波及するというようなことを考えなくてはならない。そういう組み立てを基本計画のなかでできると良いと思った。



1. 前回検討会の振り返りと第8回検討会の進め方について

(2) 本日の進め方

第7回検討会で実施したグループワークの振り返りを行い、まちづくり基本計画のとりまとめ方を確認し、意見交換したいと考えています。

- 前回のグループワークでのご意見を踏まえて、まちの将来像である「**まちづくりの目標**」について皆さんで意見交換したいと考えています。
- 第6回・第7回検討会の議論を踏まえて、「**まちづくりの基本方針**」や「**まちづくりの方向性**」、「**まちづくりの実現に向けて**」を整理しました。こちらについても皆さんで意見交換したいと考えています。



□ 赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画の構成（案）

1章 はじめに

- 1.1 背景と目的
- 1.2 位置づけと役割

目的、計画の位置づけについて
今回の見直しで再整理

2章 まちづくりの背景と特長

- 2.1 まちの成り立ちと現況分析
 - ・まちの成り立ち、歴史
 - ・現況分析（人口、地形、公共交通など）
- 2.2 上位計画等における位置づけ
 - ・都市づくりGD、マスタープラン など
- 2.3 社会的な動向
 - ・ウォーカーブル、DX、水災害の激甚化 脱炭素など
- 2.4 まちの特長（魅力と課題）
 - ※ アンケート調査結果も含む

第1回、第6回で議論

第7回検討会で共有

3章 まちづくりの目標と基本方針

- 3.1 まちづくりの目標
- 3.2 まちづくりの基本方針
 - ・震災、水害に強い市街地の形成
 - ・利便性の高い交通環境の整備
 - ・まちの魅力を高める公共的空間の整備
 - ・東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の整備

第1回、第6回、
第7回で議論

第8回検討会で確認

第8回検討会で確認

4章 まちづくりの方向性

- 4.1 まちの骨格形成の考え方
 - ・震災、水害に強い市街地の形成方針
 - ・利便性の高い交通環境の整備方針
 - ・まちの魅力を高める公共的空間の整備方針
 - ・東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の整備方針
- 4.2 重点区域におけるまちづくりの進め方

第6回・第7回検討会の議論を踏まえ
第8回検討会で確認

※ これまで検討してきたシナリオ別評価は、まちづくりの目標や将来のまちの骨格形成等の検討において、参考資料として活用する。

5章 まちづくりの実現に向けて

- 5.1 公民連携による一体的なまちづくりの推進体制
- 5.2 まちづくり基本計画策定後の進め方及びガイドライン・整備計画の検討について

第8回検討会で確認

安心して子育て

将来像	子供がのびのび遊べるまち	1名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 子供がのびのび遊べるまちを考えれば全部に繋がる。こういうのができればいいまち。 	
将来像	子供連れで安心して楽しめるまち	1名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが遊べて、親も安心して見てもらえるような場所があるべき。 	

地域交流

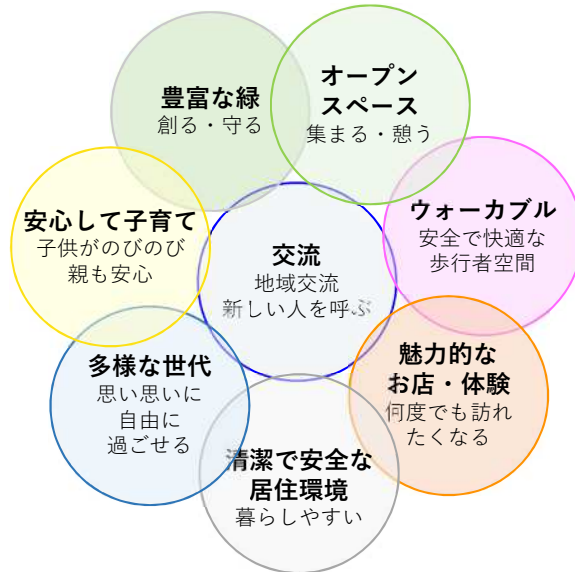
将来像	スポーツを通して、にぎわいと交流、一体感が生まれるまち	3名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 西が丘のオリンピック施設のように他区に無い施設があればよい。タイアップできたらよい。 トレセン通りや赤羽体育館などのスポーツ施設が連携して賑わいをつくれたらよい 共働きが多くなる中で高齢化が進み、まちとまちとのつながりが薄くなってしまふ。スポーツを通じて地域の人たちの交流を深めるのはすごく大きな意味がある。 	
将来像	多様な世代と交流できるまち	3名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 多世代で交流することは大切。老若男女が知り合いでなくても一緒に過ごせる場所があったらよい。 まちが持続的に発展していくためには、コミュニティー形成は欠かせない。 	
将来像	地元住民同士の交流が盛んなまち	1名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 自治会や商店街の組合の会議があるが、そこが一緒になった会議はない。住民同士の交流も持つことが大切。 	

新しい人・来街者との交流

将来像	人を呼べる、交流が生まれる（アリーナがある）まち	2名
理由	<ul style="list-style-type: none"> アリーナに限らず、新しい人を常に呼べるような、人の交流が生まれるまちにしたい。常に新陳代謝が生まれるまちづくりをしていかないとけない。 必ずしもアリーナでなくても良い人が人を呼べるものが必要。本を読めるスペースや人が集まれるオープンスペース、娯楽施設などがあったら良い。 	
将来像	来街者との交流が活発なまち	1名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 関係人口を含め、利便性があるところから、まちにお金を落とすのは住民だけでなく、来街者を含めてのコミュニティー。 	

ウォーカブル

将来像	安全で快適な歩行者空間を備えたウォーカブルなまち	3名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者・車分離で事故も減らせる。立川は駅の北側で歩車分離をしていて、まちも賑わうし歩行者・車も分離出来て事故も減らせていいのでは。 (来街者の立場)赤羽は慣れないと歩きにくいから歩きやすくしないと人が来ないのではないか。 駅前から商店街という話もあるが、岩淵も宿場町として、荒川までを含めて、かわまちづくりがこれから始まる中で、赤羽地区全体でウォーカブルが必要になる。 	



オープンスペース・緑

将来像	誰もが気軽に集まれるオープンスペースがあるまち	1名
理由	<ul style="list-style-type: none"> オープンスペースがあることで住民同士のコミュニケーションが生まれる 	
将来像	緑があふれるオープンスペースが豊富にあるまち	2名
理由	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティーの形成にも、オープンスペースは欠かせない。 赤羽公園のような大きなスペースは、他に代えがたい。小さなものつくりながらも、赤羽公園をより使いやすいものにしてほしい。 	

魅力的な商業施設

将来像	何度でも訪れたいくなる个性的で魅力的な商業施設があるまち	4名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 何度でもとは、誰にでも優しく誰もがリピーターになれるということだと思った。そういう商業施設が継続的にあればよい。住む人とかその都度のライフステージによって変わってくる。 まちの将来を考えた時に何度でも訪れたいくなるようなまちじゃないと将来性がない。赤羽は駅の交通の便がいいから、そういう面でも別の将来性から攻められるのではと思っている。 大きいイベントができる施設(バスケ・バレエ・音楽のイベント)に付随して魅力的な商業施設があることによって人が集まる。常に同じものじゃなくて新しいイベントを打ち出しているんな人が来れるまちになるのかなと思う。 地域住民も含めて何度でも訪れたいくなる商業施設があるまち。シネコン・アリーナ等があれば子供連れでも、映画を見て食事ができて一日過ごせるようなまちになるのでは。 	
将来像	だれでも安心して利用できる飲食店があるまち	1名
理由	<ul style="list-style-type: none"> (来街者の立場)物を買わないから、食べ物を選んだ 	
将来像	定期的なマルシェが開催される広場や空間があるまち	1名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 魅力がある店が集まるマルシェが開催されているようなまちになると良い 	

清潔で安全な居住環境

将来像	清潔で安全な居住環境が整って暮らしやすいまち	4名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 治安だったり、防災上など様々なものが含まれている これをやれば全てに繋がると思う。 商業のまち赤羽だが、住民にとって、住みやすいまちであってほしい。 駅周辺には商業施設があるが、赤羽地区全体を見れば広範な住宅街。住民や人を呼び込むことにとっても安全は重要。 	

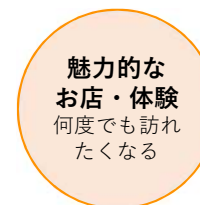
多世代が思い思いに

将来像	多様な世代が思い思いに自由に時間を過ごせるまち	1名
理由	<ul style="list-style-type: none"> 多様な世代がお互いに好きなことだけやっていたら、いがみあってしまうが、思いやりをもったようなまちになっていたら過ごしやすく楽しいまちになるのではないかと。 	

(1) まちづくりの目標

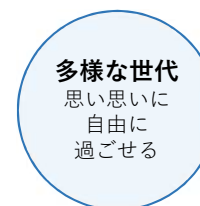
1. 人と人がつながるにぎわいにあふれたまち

住む人・働く人・訪れる人などの様々なまちの利用者が訪れたい魅力的な場を創出し、人と人の繋がりや、にぎわいが生まれ、何度でも訪れたいまちを目指します。また、多方面からのアクセスが便利なまちの立地に加え、訪れるたびに新しい発見や体験ができる魅力的な場があることで、常に新しい人が訪れて活発な新陳代謝が生まれる赤羽を目指します。



2. 様々な世代が元気に暮らせるまち

子供がのびのびと遊べる安心な子育て環境や老若男女がともに助け合える環境づくりに取り組み、子供から高齢者までの全世代が思い思いに自由に過ごせて住みやすさを実感できるまちを目指します。また、赤羽の緑の環境づくりに取り組み、住みやすい居住環境が整うまちづくりを推進していきます。



3. 安心・安全で快適に過ごせるウォーカブルなまち

治安・防災性の向上、清潔で安全な住環境づくりに取り組み、居住者から来街者まで誰もが安心・安全で快適に過ごせるまちを目指します。同時に赤羽地区全体で快適な歩行者空間を創出をすることで、赤羽の魅力ある場を繋ぎ、外に出て歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを推進していきます。



- 本検討会において、まちづくり基本計画に掲げる、赤羽のまちの将来像を示すキャッチフレーズを決めたいと考えています。

今、“赤羽”というまちがもっているにぎわい、交流、歴史、文化という魅力を、未来に向けてさらに発展させていくという思いを込めて、将来像を示す3つのキャッチフレーズ案を作成しました。

案A 人にやさしく 誰もが集える にぎわいのあるまち 赤羽
～魅力あふれる東京の北の玄関口～

案B 北区赤羽 ふれあいとにぎわいがあふれた サステナブルなまち

案C はばたけ、次の世代へ！
～人がつながる、やさしさとにぎわいあふれるまち、赤羽～

○第7回検討会グループワークの振り返り

※委員欄：旗立てした委員の人数

【認識】（とりまとめ）

1. 震災・水害に強い市街地の形成

▷建物の更新・防災性能向上の必要性

認識	● 古い木造の建物が密集していて小学校を含めて火災や延焼の危険がある	
委員	9名	
場所	重点区域周辺エリア、2地区・3地区・小学校	
主な理由	● 昨年末の火災により顕在化した、老朽建物の密集の問題や緊急車両も入れないような狭い道路の問題などの解決が大きな課題と認識。	
認識	● 災害を考えると風景を残しつつも耐震性を踏まえてある程度の開発は必要	
委員	1名	
場所	重点区域	
認識	● 気候変動(ゲリラ豪雨)による内水氾濫対策が必要	
委員	1名	
場所	重点区域周辺エリア	
理由	● 西口のBivioの地下が水没したことからも、命の危険がある課題。防げるような設備があればよい	

▷道路拡幅・新たな道路ネットワーク構築の必要性

認識	● 幅員が狭く、小学校の緊急車両の通行ができるのが心配	
委員	2名	
場所	重点区域周辺エリア／重点区域	
主な理由	● 道路幅員も非常に狭く、建物が倒れてしまえばもう子ども通れない状況で消火活動にも支障あり。 ● 小学校の周りを拡幅して、すぐに緊急車両が到着できることが必要。	

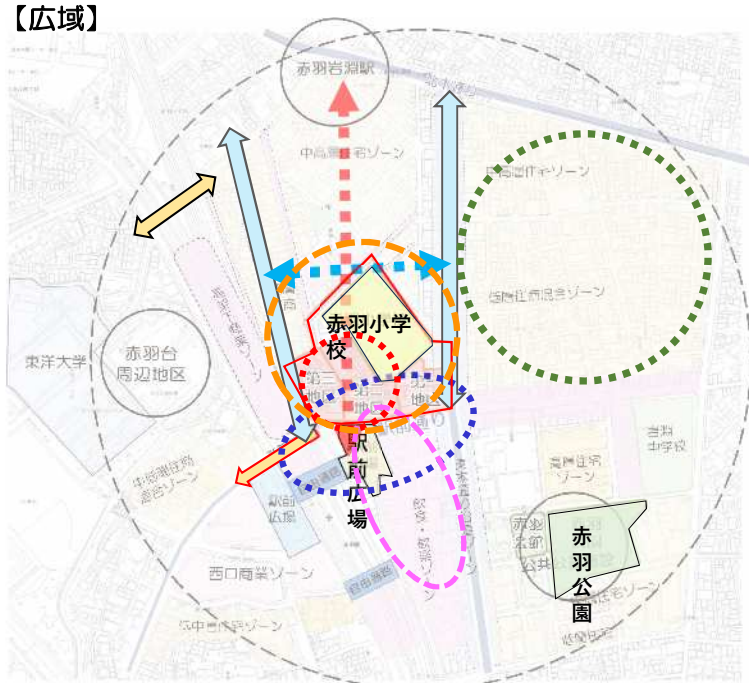
▷防災拠点となる公共施設構築の必要性

認識	● 駅前に防災拠点となる区の施設が必要	
委員	4名	
場所	赤羽小学校／2地区・3地区	
主な理由	● 老朽化した木造密集地域であり、災害を考えると小学校に防災拠点となる施設が必要。 ● 駅前に災害の拠点があれば、赤羽駅利用者にも対応できて、安心なまちに繋がる。	

4. 東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

▷商業ゾーンの治安改善の必要性

認識	● 一番街付近の飲食店街は酔客やキャッチが多く、治安の問題がある	
委員	3名	
場所	東口から一番街までの飲食店街	
理由	● 駅前広場のキャッチ・一番街の客引きなど治安の悪さ・せんべろのマイナス面が多く、環境づくりが必要。	



3. まちの魅力を高める公共空間の整備

▷オープンスペースの使い方の改善の必要性

認識	● 駅前の喫煙者而非喫煙者がどのように共存するかの検討が必要	
委員	1名	
場所	駅前広場	
理由	● 両者が気持ちよく過ごせるような環境づくりを。行政だけでなく民間施設も含めて協力が必要。	

▷オープンスペースの拡充の必要性

認識	● オープンスペースが不足している	
委員	1名	
場所	中高層住宅ゾーン・低層住商混合ゾーン	
理由	● 住宅エリアにオープンスペースが少ない。緑の確保が必要	

▷公園の機能更新の必要性

認識	● 赤羽公園は貴重な緑の空間だが、割れた地面がありベビーカーや車いすの通行の際に危険。噴水が稼働していない。	
委員	1名	
場所	赤羽公園	
理由	● バリアフリーの整備をして、赤羽公園に集まって避難できるようにするのが大切。	

2. 利便性の高い交通環境の整備

▷乗換え環境の改善の必要性

認識	● JRや地下鉄、バスなどの交通手段間のアクセス性が悪い	
委員	2名	
場所	赤羽駅と赤羽岩淵駅の間、東口周辺	
主な理由	● JR駅と地下鉄駅・バス停がバラバラ。交通結節機能を十分に果たせていない。 ● 赤羽駅と赤羽岩淵駅をつなぐ動線（地下街など）があれば利便性がより向上する。	

▷東西方向の基盤整備の必要性

認識	● 東本通りと本町通りの間を繋ぐ道路が必要	
委員	1名	
場所	東本通りと本町通り（バス通り）に挟まれたエリア	
主な理由	● 街区割が斜めになっていて本町通りと東本通りの間の円滑な交通が確保できていない。	

▷東口と西口の連絡動線の機能向上の必要性

認識	● 赤羽駅の東口と西口間の道路は、一方通行のため円滑な移動ができていない	
委員	2名	
場所	八幡神社側・赤羽駅側東西道路	
主な理由	● 高架下の東西道路は南北共に相互通行にすべき。夕方になると必ず渋滞する。路駐など被災時の緊急車両の通行を考えると改善が必要。	

◆ 持続可能なまちづくりに向けた先進的な取り組み

▷サステナブルなまちづくりの必要性

認識	● サステナブルなまち・カーボンマイナスに対応するまちづくり	
委員	1名	
場所	周辺区域全体	
主な理由	● 100年先のことを考えた場合、一番大切なことはサステナブルなまち。カーボンマイナスやSDGsに対し、まちとしてどういった答えを出すのか。	

◆ まちづくりの検討の場の必要性

▷まちづくりの進め方の提案

認識	● 赤羽駅周辺のまちづくりを考えていくうえで、各自それぞれが見ている方向がバラバラである	
委員	1名	
場所	周辺区域全体	
主な理由	● 引き続き何らかの形で街の未来を考えていく場が必要。	

○第7回検討会グループワークの振り返り

※委員欄：旗立てした委員の人数（カッコ内の人数は、「認識」での数を示す）

【課題と方策例】（とりまとめ）

1. 震災・水害に強い市街地の形成

課題	● 浸水時でも機能する避難場所等の確保
方策例	水害時に機能する避難場所の確保
委員	1名
場所	全域
理由	・ 荒川決壊時には北区の避難対象者が11万人となっているが受け入れ態勢が整っていないため。
課題	● 都市的な排水・調整機能の向上
方策例	豪雨対策・調整池の整備を早く進める等
委員	2名
場所	全域
理由	・ 内水氾濫を止めるために迂回路をつくるなどの整備が必要。 ・ 東口は元々大きい池があった場所であり、地下水を含めて対策が必要。

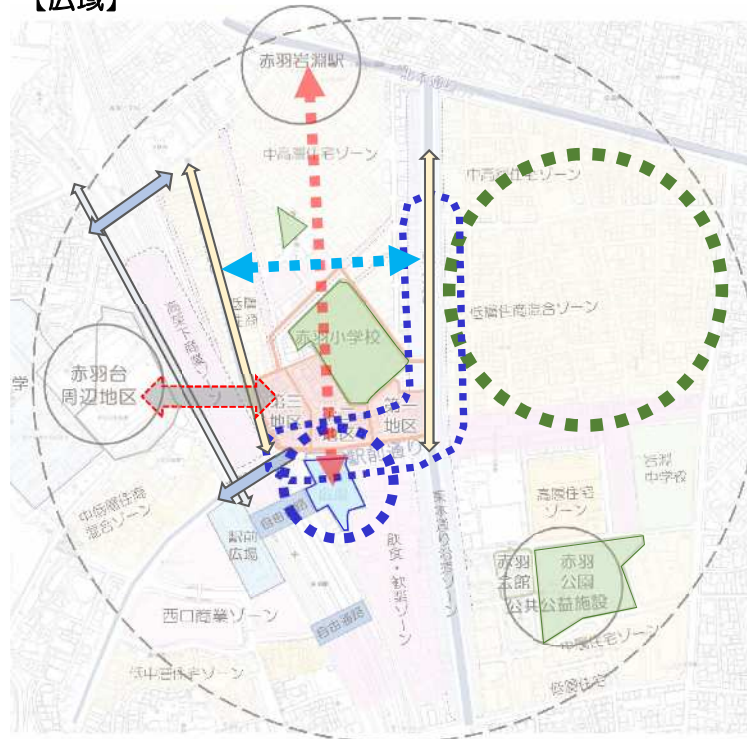
3. まちの魅力を高める公共的空間の整備

課題	● 新しくオープンスペースをつくる
方策例	住宅エリアに新たなオープンスペースをつくる
委員	1名
場所	低層住宅商業混合ゾーン・中高層住宅ゾーン
理由	・ 東本通りから東側の住宅エリアにはオープンスペースが少ないので、緑の確保が必要。
課題	● 緑豊かなまちづくりの実現
方策例	土地利用のゾーニングの際には緑の不足も含めて検討する
委員	2名
場所	駅前広場／赤羽公園・赤羽小学校・三角公園
理由	・ 自然・緑を入れることで新たな課題解決に繋がる。 ・ 赤羽公園や赤羽小学校、三角公園などにある大きな木など豊かな緑を大事にする

4. 東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

課題	● 自然発生的なゾーニングを適材適所に再構成
方策例	工場跡地にたまたまつくられた赤羽公園の適地を含め、今後100年を見据えたゾーニングを検討する
委員	5名
場所	区域全体
主な理由	・ 小学校・赤羽会館などの大きな区画のゾーニングを含め、現在のまちを広域的に捉えて、将来を見据えたまちづくりを考えるべき。 ・ 大きなゾーニングを駅前から始めるべき

【広域】



◆コミュニケーションの場の醸成（まちづくりの進め方）

課題	● ソフト面でのまちづくりの推進
方策例	コミュニケーションの場づくり (大家/テナント、来街者、新旧住民、外国人居住者etc)
委員	3名
場所	全体
理由	・ 外国人居住者が増加している。震災時に連携ができるようにコミュニケーションの場ができればよい。
課題	● ソフト面でのまちづくりの推進
方策例	エリアプラットフォームの立ち上げ
委員	4名
場所	全域
主な理由	・ 行政主導ではなく、住民主導の気兼ねなく話せる場がほしい。 ・ 住民が活発に議論できる場があればよい。 ・ エリアプラットフォームの立ち上げるなど、まちづくりを検討する場をつくった方がよい。

2. 利便性の高い交通環境の整備

課題	● まちの景観向上と歩行環境の改善
方策例	歩道上の駐輪場を集約（移設）する
委員	1名
場所	駅前通りと東本通り
理由	・ 利用者からすれば路上の駐輪場は利便性は高いと思うが、居住者からすると、見栄えは良くない。馬鹿祭りの際も歩道に駐輪場があって見学がしにくい。よりよい形で集約できたらよい。
課題	● 広域での取り組みの必要性（駐車場・駐輪場）
方策例	まちづくりのタイミングに合わせて、駐輪場等を移設・集約等により再整備を行う
委員	2名
場所	駅前広場
理由	・ このタイミングで駐輪場の在り方を見直すべき

課題	● 東西を繋ぐ車両動線の整備
方策例	東西の車両の行き来がしやすくなる道路の整備
委員	8名
場所	JR高架下（南北の東西道路）／重点区域周辺
主な理由	・ 南側の東西道路を相互通行にすべき。 ・ 東口と西口間の車両の行き来をよくすれば、交通事故の問題や歩行者の安全のどちらにも取り組んでいける。 ・ 街区割が斜めになっていて本町通りと東本通りの間の円滑な交通が確保できていない。

課題	● 東口と西口を繋ぐ歩行者動線の整備
方策例	人の行き来ができるように赤羽台ゲートウェイと東口を橋か地下で繋げる工事をする
委員	1名
場所	JR高架下

課題	● 交通手段間のアクセス性の向上
方策例	赤羽駅東口と赤羽岩淵駅をつなぐ南北の歩行者動線の整備
委員	(2名)
場所	赤羽駅と赤羽岩淵駅の間、東口周辺
主な理由	・ JR駅と地下鉄駅・バス停がバラバラ。交通結節機能を十分に果たせていない。 ・ 赤羽駅と赤羽岩淵駅をつなぐ動線（地下街など）があれば利便性がより向上する。

◆持続可能なまちづくりに向けた先進的な取り組み

課題	● サステナブルなまちづくり・低炭素に対応するまちづくりの実現
方策例	2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す
委員	(1名)
場所	周辺区域全体
主な理由	・ 100年先のことを考えた場合、一番大切なことはサステナブルなまち。カーボンマイナスやSDGsに対し、まちとしてどういった答えを出すのか。

○第7回検討会グループワークの振り返り

※委員欄：旗立てした委員の人数（カッコ内の人数は、「認識」での数を示す）

【課題と方策例】（とりまとめ）

1. 震災・水害に強い市街地の形成

課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物の防災性能の向上 ● 周辺街区も含めた防災性能の向上
方策例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古い木造の建物(飲食店等)が密集している状態から火災や地震に強い建物への転換が必要 ・ 重点区域以外の老朽化が進む周辺街区の防災性能の向上
委員	1 2名
場所	重点区域周辺エリア
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽木造建物を火災や地震に強い建物へ転換することが一番進めるべき課題。 ・ 重点区域だけでなく、周りも含めた周辺一帯が消防法の中で危険なエリア。重点区域に限らず防災性能の向上が求められる。

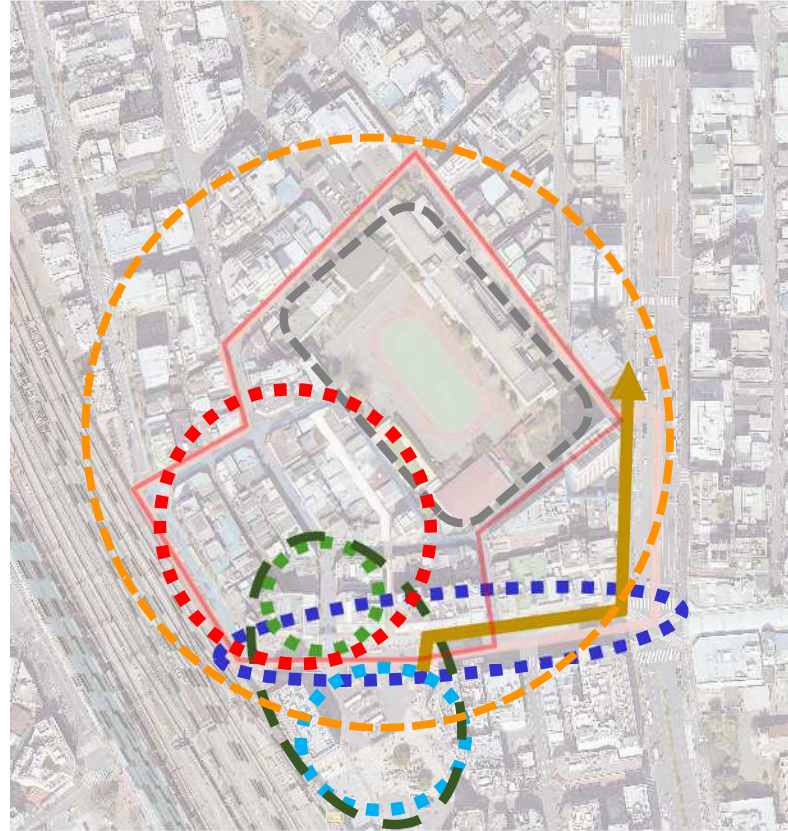
課題	● 緊急車両の通行の確保
方策例	地域や小学校への緊急車両の通行を可能とする十分な幅員を有する道路の整備
委員	1名
場所	重点区域周辺エリア
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急車両の通行を確保することによって必然的に建物を変えないといけない。道路の拡幅整備によって防災性能の向上も図れる。

課題	● 駅前の公共施設の整備・活用等
方策例	駅前に公共施設を整備し災害時に災害対応の拠点として活用する
委員	(4名)
場所	赤羽小学校 / 2地区・3地区
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前に災害対応拠点施設があれば、赤羽駅利用者にも対応できて、安心なまちに繋がる。

課題	● 被災時の駅利用者の避難先の整備
方策例	被災時の駅利用者を受け入れるスペースの確保
委員	1名
場所	赤羽駅周辺
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤羽駅は乗り換えへのアクセスが良く、利用者の多い駅であるため、被災時に電車が止まれば駅の外に人が溢れることが想定される。そのような状況でも、ある程度の安全が保たれる場所が必要。

課題	● オープンスペースの確保
方策例	駅前にオープンスペースを確保する
委員	1名
場所	駅前広場
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きい空地は避難や火災の焼け止まり等に非常に有効という観点もある。広小路のようなものがあれば、周辺の方の安全がより高まる。

【重点区域周辺】



2. 利便性の高い交通環境の整備

課題	● 公共交通機関利用者の乗り換えを円滑化
方策例	分散している公共交通機関のアクセス性を向上 分散しているバス停を駅前に集約
委員	3名
場所	赤羽岩淵駅へ向かう動線上 / 駅前広場と駅前通り周辺
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス停の集約はアンケートの結果から見ても大切。岩淵駅へは一番街を避けて東本通りを通る人が多いので、そのルート上にバス停を集約する方が良い。 ・ 交通の結節点は大きな赤羽の魅力の一つ。分散しているバス停の集約などもあるが駅前広場の整備の考え方は、もう一度検討した方が良い。

3. まちの魅力を高める公共的空間の整備

課題	● 今ある機能の見直しや再構成
方策例	喫煙所や稼働していない噴水の見直しや再構成により魅力ある駅前の顔をつくる
委員	4名
場所	一番街の入り口周辺を含めた駅前全体
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能を分散させて、今あるもので赤羽の魅力を向上する方法を考えた方がよい。 ・ 駅前広場より広範囲で機能の再構成をすべき。

課題	● 多様な人々にとって快適な駅前空間づくり
方策例	喫煙者と非喫煙者が共存できる等多様な人々にとって快適な駅前空間づくり（分煙）
委員	1名
場所	駅前広場

課題	● ゆとりある駅前空間づくり
方策例	ゆとりがある駅前空間の創出
委員	2名
場所	駅前広場
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆとりある滞在しやすい空間に、抜本的にきれいにしてほしい

課題	● 新しくオープンスペースをつくる
方策例	新たなオープンスペースをつくる
委員	3名
場所	一番街の入口付近 / 2・3地区・小学校
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番街側は雑然としているため、公開空地のような形でよいから新しいオープンスペースがあった方が歩きやすく、見通しも良くなる。 ・ 2・3地区・小学校を含むエリアに新しいオープンスペースをつくりたい

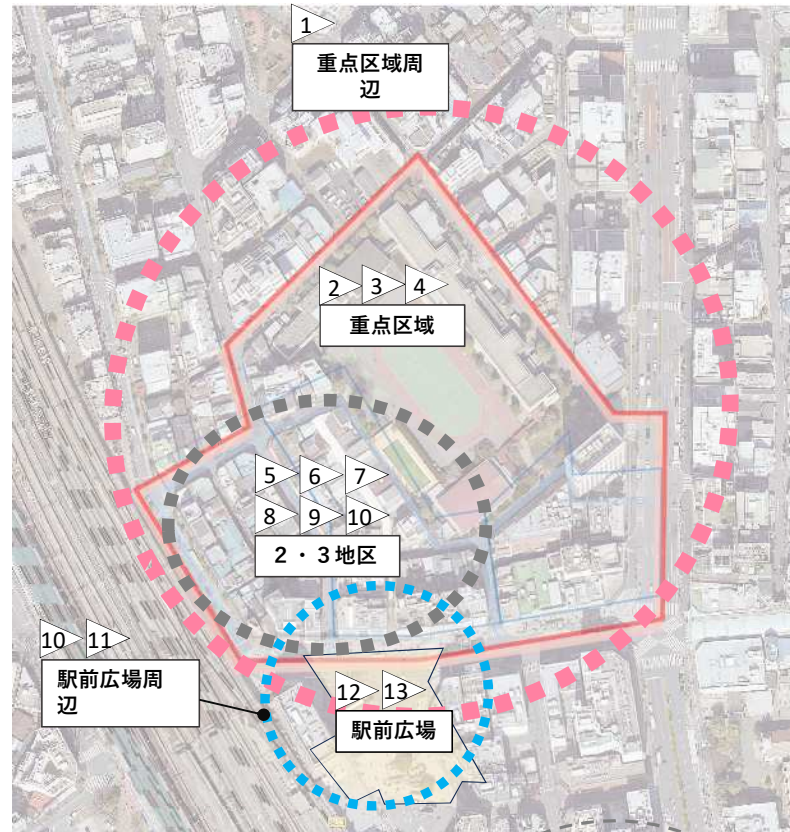
4. 東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

課題	● 治安の改善
方策例	安心して歩いて楽しめる商業空間を整備する
委員	7名
場所	一番街の入り口周辺を含めた駅前全体 / 2・3地区
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤羽駅降りてすぐに若い女の子と隣に怖いお兄さんがいる状況は、来街者からすると非常に印象が悪い。治安を改善して誰でも楽しめる赤羽になってほしい。 ・ 駅前広場のキャッチなど治安が悪い。もう少し環境づくりをしていく必要がある ・ 客引き防止のパトロールをしているが改善しない。

課題	● 利便性の高い住環境づくり
方策例	生活を支えるような買い物ができる場所を整備する
委員	1名
場所	重点区域周辺エリア
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物ができるような場所を整備してほしい。

1	機能	1. 全体に大きく目的を持った施設
	委員	1名
	場所	重点区域周辺
	理由	・あまり小さなパーツとしたりたくない。子供のものなのか、パーツパーツになりたくない。まち全体の話。

【重点区域周辺】



2	機能	2. 緑があるオープンスペース
	委員	1名
	場所	重点区域
	理由	・2地区、3地区のところで、緑あるオープンスペースがあったらよい。

3	機能	3. 震災・水害に強い市街地の形成
	委員	1名
	場所	重点区域

4	機能	4. 情報発信機能
	委員	1名
	場所	重点区域
	理由	いろいろな意味で情報発信機能のある施設

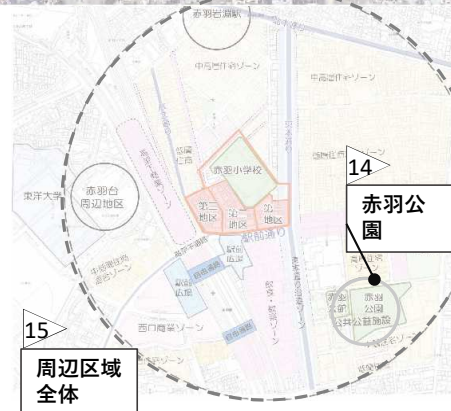
5	機能	5. 再開発
	委員	1名
	場所	2・3地区
	理由	再開発による更新でまちの機能の向上が必要

6	機能	6. 客引きがない、チェーン店ばかりではない、大人も子供も入りやすい色々なジャンルの飲食店
	委員	1名
	場所	2・3地区

7	機能	7. 集客施設(シネコン・アリーナ)
	委員	1名
	場所	2・3地区

8	機能	8. スポーツやイベントもできるアリーナ的な施設
	委員	1名
	場所	2・3地区

9	機能	9. 複合施設
	委員	1名
	場所	2・3地区



10	機能	10. 駅周辺の安全を高めて、地域全体の安心に繋げる
	委員	1名
	場所	2・3地区(再開発)+駅前広場周辺

11	機能	11. 多様な世代がお互いに存在を認識しつつ、過干渉もしない短時間から長時間、自由な用途で使えるフリースペース
	委員	1名
	場所	駅前広場周辺
	理由	集会所などのスペースが駅前にあればよい。

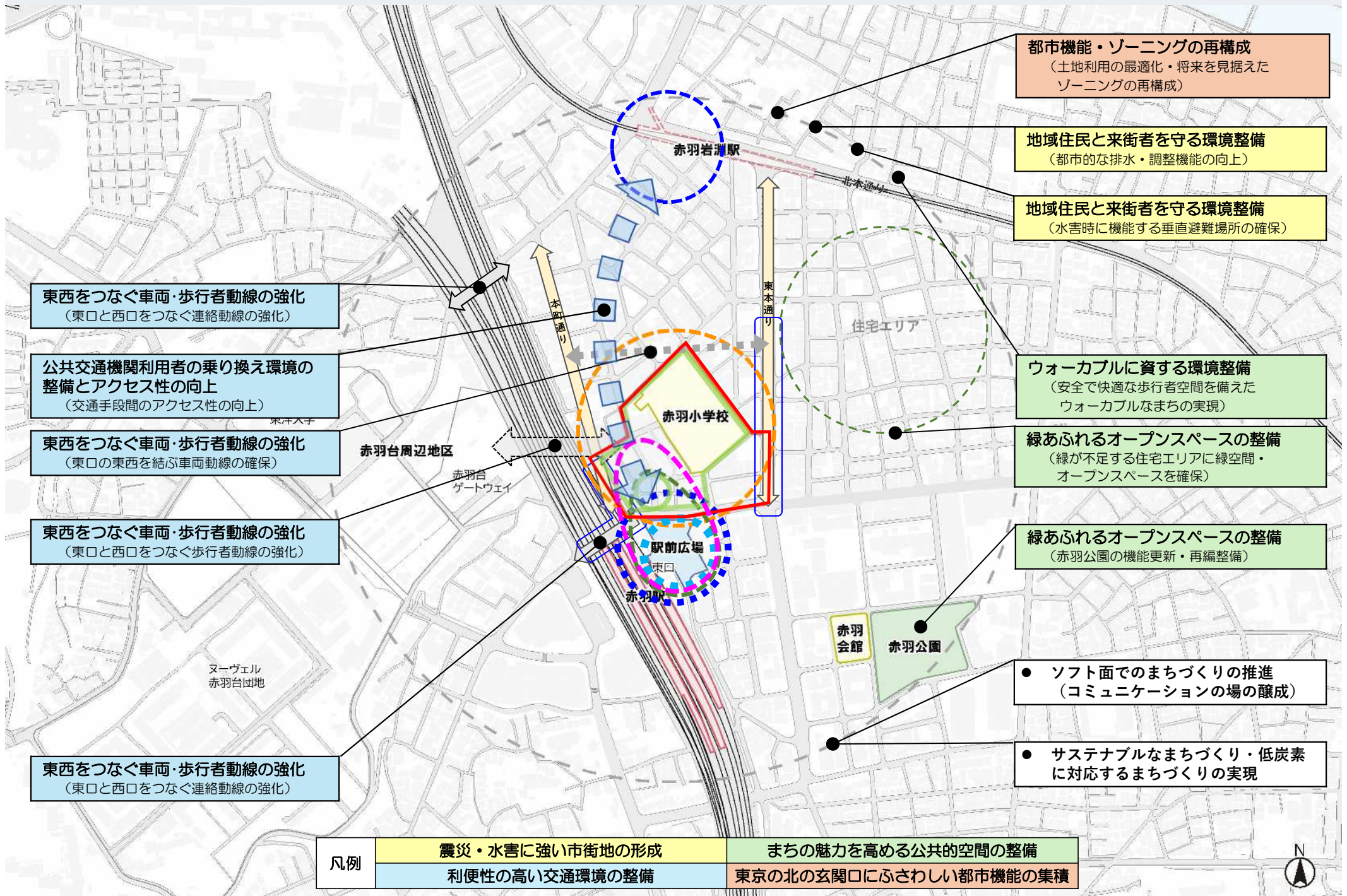
12	機能	12. 多様な世代が優しい気持ちになれるようなオープンスペース
	委員	1名
	場所	駅前広場
	理由	

13	機能	13. 緑豊かに人が滞留できる駅前
	委員	1名
	場所	駅前広場
	理由	駅前のバス空間を含めての整備

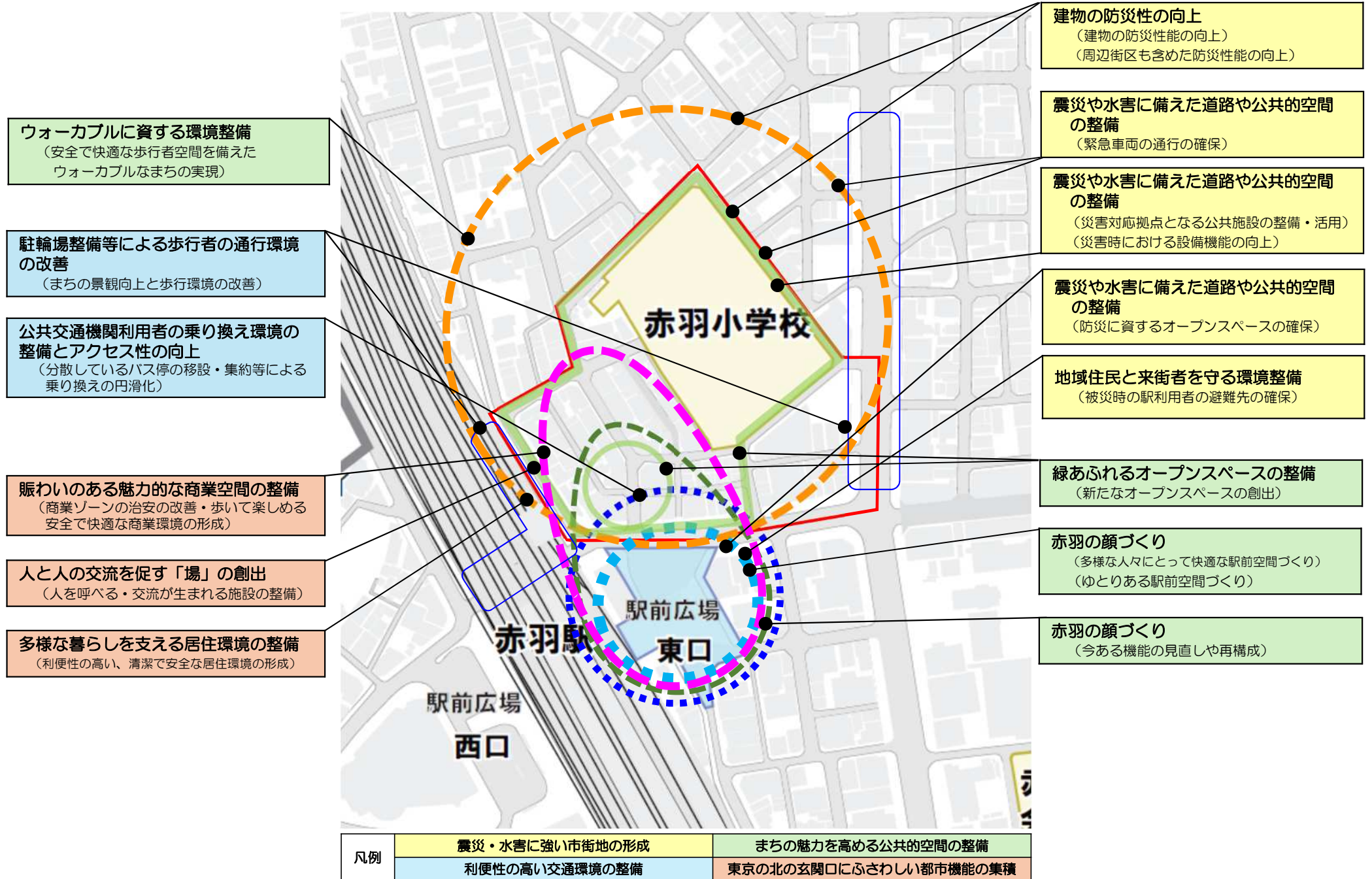
14	機能	14. 赤羽公園からまちづくりを考え発展させていきたい
	委員	1名
	場所	赤羽公園
	理由	・住民目線だと、公園の魅力がそのまちの魅力を最大限発揮できると考える。

15	機能	15. 清潔で安心・安全な環境
	委員	1名
	場所	周辺区域全体

○第7回検討会グループワークのとりまとめ



○第7回検討会グループワークのとりまとめ



(2) まちづくりの基本方針

○震災・水害に強い市街地の形成

①建物の防災性の向上

- ・老朽化した木造建築物が密集する状況から、火災や地震に強い建物へ更新を図る
- ・地区全体での防災性能の向上を図る

②震災や水害に備えた道路や公共的空間の整備

- ・緊急車両の通行を可能とする十分な幅員を有する道路の整備を図る
- ・被災時の一時避難や、火災の焼け止まりに有効なオープンスペースを確保する
- ・駅前に災害対応拠点を確保し、災害時の設備や資材の充実を図る

③地域住民と来街者を守る環境整備

- ・被災時の駅利用者を受け入れる一時滞在施設や滞留空間を確保する
- ・水害時に機能する垂直避難場所を確保する
- ・気候変動などによる内水氾濫対策として、都市的な排水、調整機能の向上を図る

○利便性の高い交通環境の整備

①公共交通機関利用者の乗換え環境の整備とアクセス性の向上

- ・分散しているバス停の集約も含め利用しやすい乗換え環境の整備を図る
- ・赤羽駅と赤羽岩淵駅のアクセス性の向上を図る

②東西をつなぐ車両・歩行者動線の強化

- ・車両が行き来しやすく、歩行者の回遊性が高まる駅東西をつなぐ動線の強化を図る

③駐輪場整備等による歩行者の通行環境の改善

- ・駐輪場等の整備に合わせて歩行者空間の整備を進め歩行者の通行環境の改善を図る

(2) まちづくりの基本方針

○まちの魅力を高める公共的空間の整備

①赤羽の顔づくり

- ・魅力的でゆとりある赤羽駅前や赤羽らしいにぎわいのある顔づくりを進める

②緑あふれるオープンスペースの整備

- ・オープンスペースが不足する地域に、新たに緑あふれるオープンスペースの整備を進める
- ・今ある緑空間を生かし、魅力ある公園空間とするための再整備を進める

③ウォーカブルに資する環境整備

- ・歩いて楽しく、居心地の良さを感じられるウォーカブルなまちづくりを進める

○東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

①都市機能・ゾーニングの再構成

- ・自然発生的ではなく将来を見据えたゾーニングを検討する

②多様な暮らしを支える居住環境の整備

- ・多様な世代にとって利便性の高い居住環境の整備を図る

③賑わいのある魅力的な商業空間の整備

- ・安心して歩いて楽しめる魅力的な商業空間の整備を図る

④人と人の交流を促す「場」の創出

- ・地域住民や赤羽を訪れる人達との交流がうまれる施設などの整備や仕組みの構築を図る

(3) まちの骨格形成の考え方

震災・水害に強い市街地の形成方針



① 建築物の防災性の向上

緊急輸送道路沿道の建築物の耐震化や、避難場所である荒川河川敷一帯への避難路沿道の建築物の不燃化を図ります。また、駅東口周辺では防火性・耐震性に問題のある建築物の更新を図ります。

② 震災や水害に備えた道路や公共的空間の整備

まちの骨格的となる緊急輸送道路や避難路、高台避難ルート^④の整備をすすめ、震災・水害に強い市街地を形成します。また、建物更新やまちづくりにあわせて、生活道路の拡幅や再編、オープンスペースの確保などを行い、まちの防災性を向上させます。

③ 地域住民と来街者を守る環境整備

震災時に、帰宅支援対象道路では徒歩帰宅者が円滑に区内を通過し帰宅できるような対策をすすめるとともに、駅周辺では帰宅困難者の一時滞在施設や滞留空間を確保します。

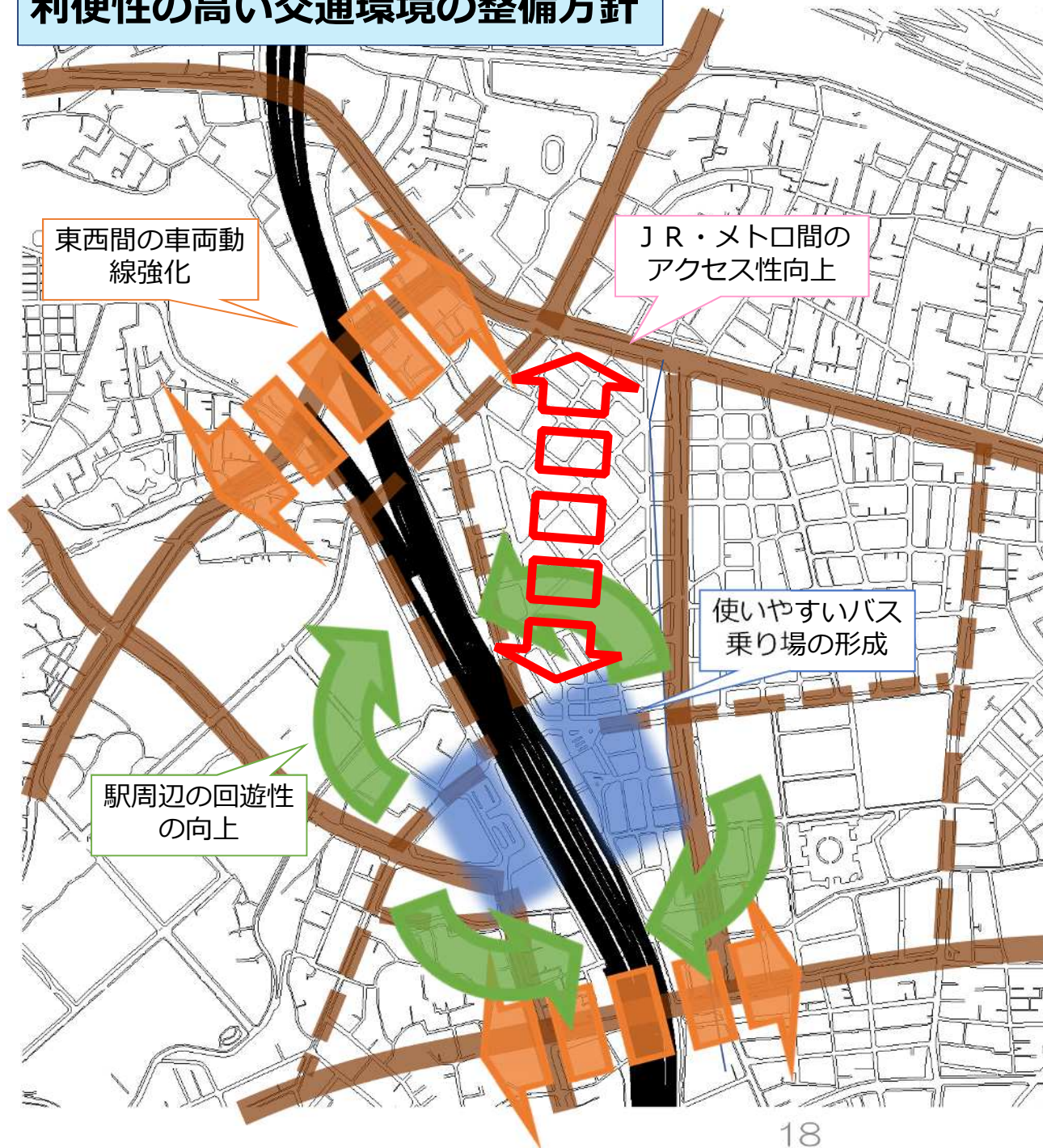
また、荒川氾濫時に浸水する区域については、緊急時の垂直避難先の確保を進めます。内水氾濫対策として、都市的な排水機能等の向上を図ります。

- 緊急輸送道路
- 避難路（北区地域防災計画）
- 帰宅支援対象道路
- ← 高台避難ルート

(3) まちの骨格形成の考え方

4章の内容

利便性の高い交通環境の整備方針



① 公共交通機関利用者の乗換え環境の整備とアクセス性の向上

使いやすいバス乗り場の形成や J R 赤羽駅と東京メトロ赤羽岩淵駅間のアクセス改善等を行うことで交通結節性を高め、交通利便性の高いまちを形成します。

② 東西をつなぐ車両・歩行者動線の強化

幹線道路の整備等により線路の東西間の車両交通の円滑化を図るとともに、駅東西間の歩行者動線を強化することで駅周辺の回遊性向上を図ります。

③ 駐輪場整備等による歩行者の通行環境の改善

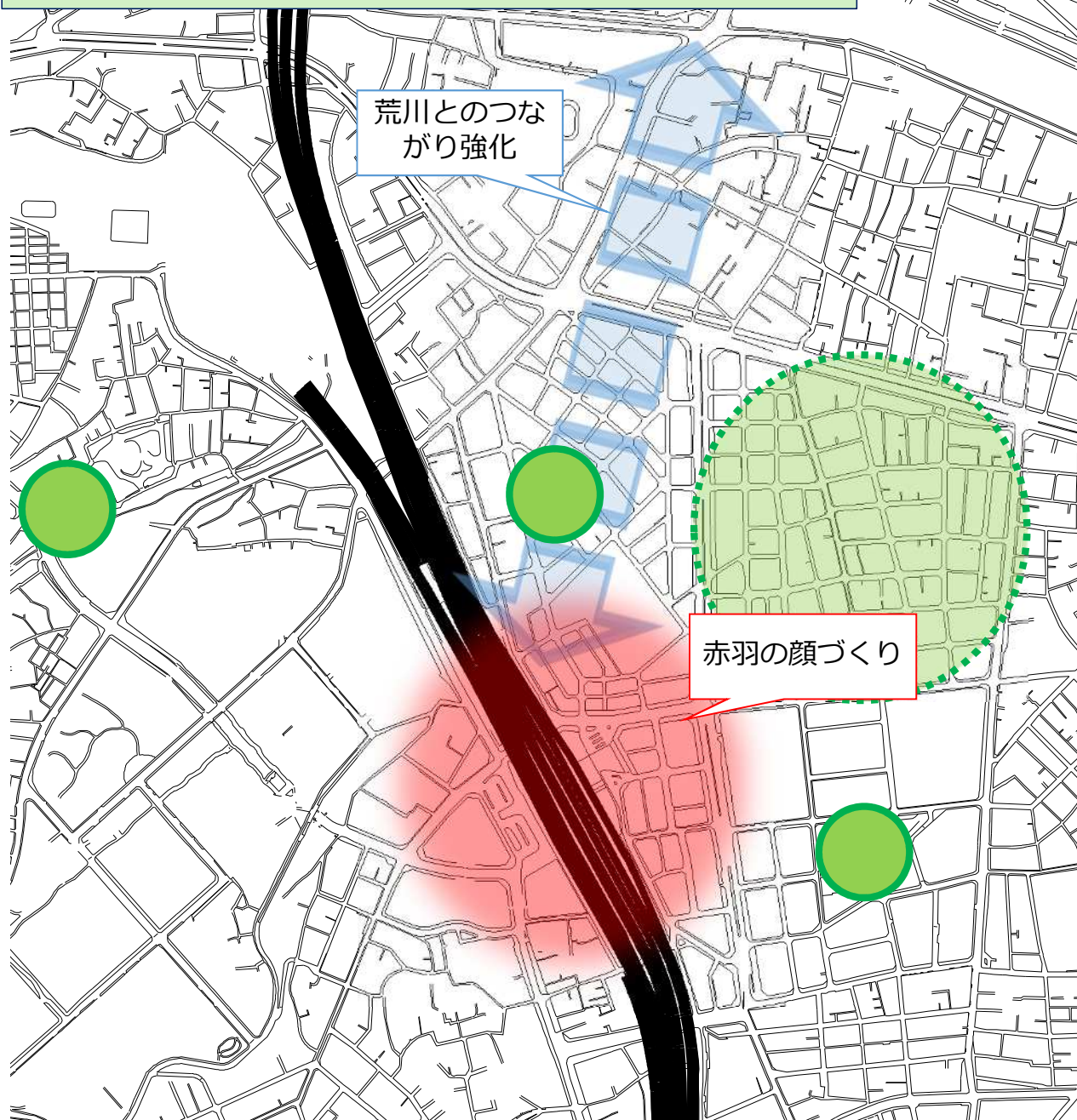
駐輪場や自転車走行空間の整備と合わせて、歩行者空間の整備をすすめ歩行者の通行環境の改善を図ります。

- 幹線道路
- - - 地区幹線道路

(3) まちの骨格形成の考え方

4章の内容

まちの魅力を高める公共的空間の整備方針



① 赤羽の顔づくり

駅前を**開放的な空間**とするための取組みを進めるとともに、その周辺の建物低層部を含めた駅前空間を**赤羽らしいにぎわいを感じられる空間**とすることで赤羽の顔づくりをしていきます。

② 緑あふれるオープンスペースの整備

公園の不足する地区などで**公園整備を進めるとともに、公園・広場空間の適正配置**を図ります。

魅力ある公園空間とするための**再整備**をすすめます。

道路空間の緑化や開発による緑空間の整備などにより、まちなかの緑化を進めます。

③ ウォーカブルに資する環境整備

歩いて楽しく、居心地の良さが感じられる**ウォーカブルなまちづくり**をすすめます。

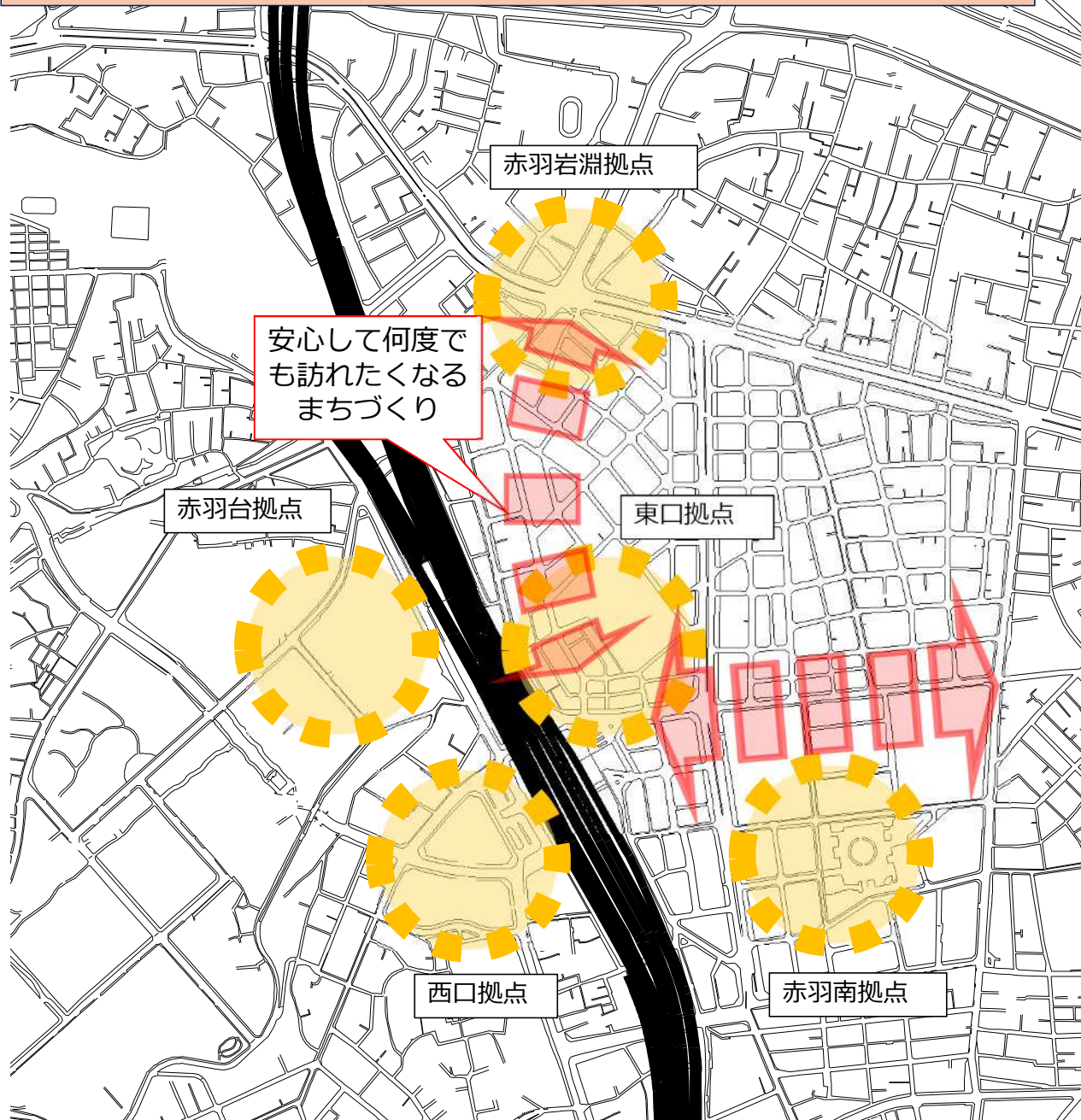
また、荒川のかわまちづくりとの連携のもと**駅周辺と河川空間のつながり**を強化していきます。

 都市公園

 公園不足地区

(3) まちの骨格形成の考え方

東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積方針



① 都市機能・ゾーニングの再構成

駅周辺の機能集積と再構成を図るべき地区を地域の拠点として位置づけ、商業・業務・文化・教育・住宅・公園・広場等の各機能の集積と連携・分担を行い、赤羽の拠点形成を図かります。

② 多様な暮らしを支える居住環境の整備

多様な人々、多様な世代が便利にいきいきと暮らせるまちになるよう居住環境の整備をすすめます。

③ にぎわいのある魅力的な商業空間の整備

魅力的な商業空間整備とあわせて、安心して何度でも訪れたいまちづくりを行い、駅から連続するにぎわいの軸を形成していきます。

④ 人と人の交流を促す「場」の創出

まちづくりにあわせて人と人の交流がうまれる施設や仕組みを創出します。



地域の拠点



にぎわいの軸

(4) 重点区域におけるまちづくりの進め方

重点区域では、取り組むべき多くの課題があるとともに、市街地再開発事業の動きがあることや赤羽小学校が改築の時期を迎えている状況などを踏まえ、今後、まちづくりに短期的・重点的に取り組むエリアを、改めて「重点区域」として位置づけます。

- ・ 建物の防災性の向上
- ・ 震災や水害に備えた道路や公共的空間の整備
- ・ 地域住民と来街者を守る環境整備

- ・ 公共交通機関利用者の乗換え環境の整備とアクセス性の向上
- ・ 駐輪場整備等による歩行者の通行環境の改善

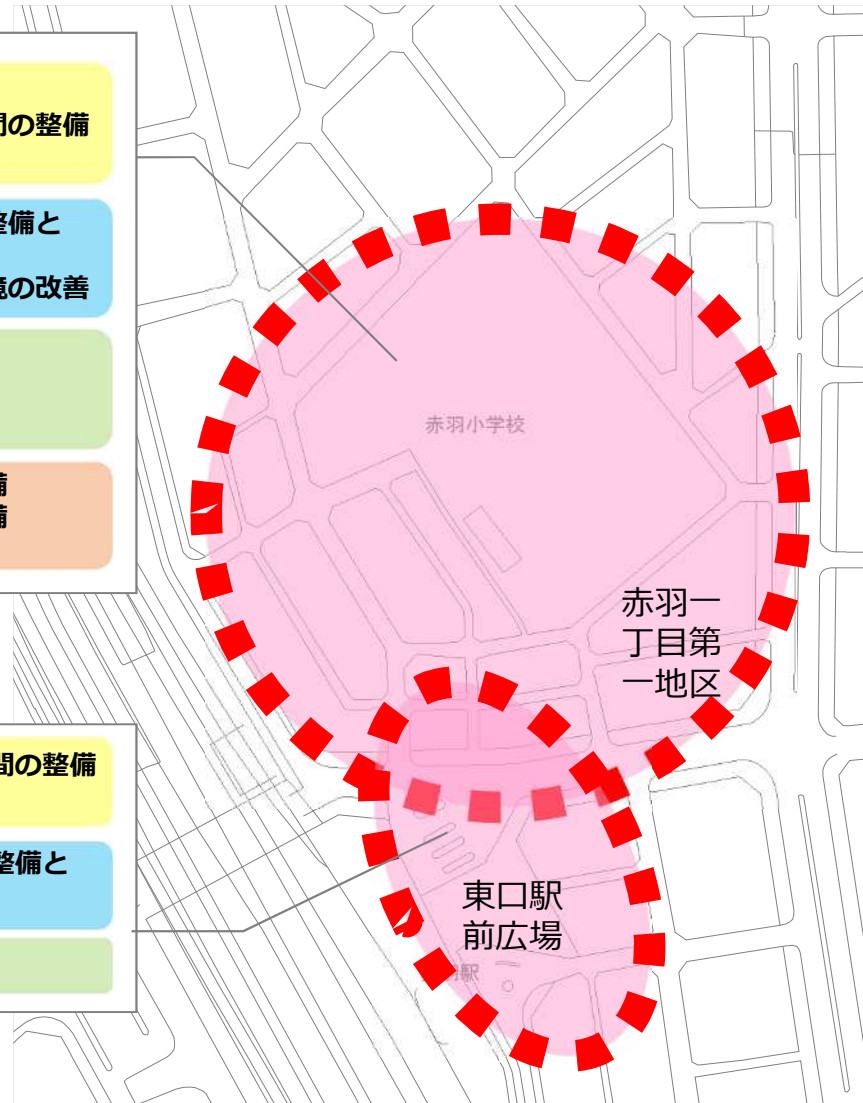
- ・ 赤羽の顔づくり
- ・ 緑あふれるオープンスペースの整備
- ・ ウォークブルに資する環境整備

- ・ 多様な暮らしを支える居住環境の整備
- ・ 賑わいのある魅力的な商業空間の整備
- ・ 人と人の交流を促す「場」の創出

- ・ 震災や水害に備えた道路や公共的空間の整備
- ・ 地域住民と来街者を守る環境整備

- ・ 公共交通機関利用者の乗換え環境の整備とアクセス性の向上

- ・ 赤羽の顔づくり



■グループワークのとりまとめから、取り組むべき課題等がより集中し、課題解決によりその効果が大きいと考えられる区域を「重点区域」として位置付けます。

■先に触れた「まちづくりの目標」や「基本方針」を実現するためには、それぞれの街区で取り組みを進めるよりも、赤羽小学校や東口駅前広場を含めた区域全体で取り組みを進めることが、より効果的であると言えます。

■これまでの検討を踏まえ、「重点区域」の範囲は、現時点で市街地再開発事業の動きがある各街区、赤羽小学校及び東口駅前広場を含む範囲とします。

■この「重点区域」においては、事業区域の大きくくり化を念頭に、公共施設整備を含めた、短期的かつ一体的なまちづくりを図ることとし、具体的な整備イメージや実現化方策等は、今後策定する（仮称）赤羽駅周辺まちづくり整備計画で明らかにしていきます。

(5) まちづくりの実現に向けて

■ 公民連携によるまちづくりの推進

まちづくりの目標を達成するために、区をはじめとする行政と区民、民間事業者等がそれぞれの役割を担い、互いに連携・協働して取り組んでいきます。

赤羽駅東口まちづくり協議会など、まちづくりを主体的に実践する組織の活動を促進し、多様な主体がまちづくりに関わる場を創出します。

■ エリアマネジメントの導入検討

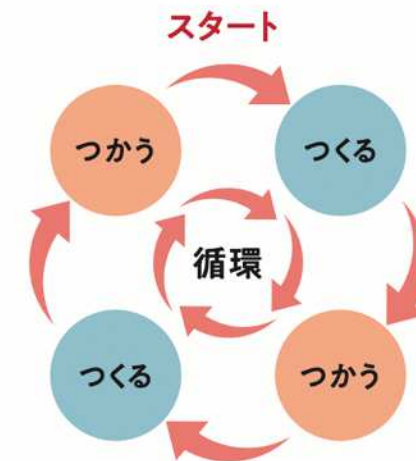
公共空間をつくる前にその使い方を考え、整備後には公共空間の良好な管理と運営を行うエリアマネジメントの導入を検討します。

■ 持続可能なまちづくりの取り組み

脱炭素など環境に配慮したまちづくりやそれを支える仕組みづくりなど持続可能なまちづくりを行います。



多様性を備えたクリエイティブな都市へと再生するエリアマネジメント（国土交通省）より



居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン（国土交通省）より

(5) まちづくりの実現に向けて

■ まちづくり基本計画策定後の進め方

まちづくりの目標の実現に向けて、周辺区域の土地利用や基盤整備のあり方をとりまとめ、まちづくりにおける誘導指針として、まちづくりガイドラインを策定します。

重点区域については、具体的な整備イメージや実現化方策等を明らかにしたまちづくり整備計画を策定します。

まちづくりガイドラインやまちづくり整備計画の検討にあたっては、学識経験者や関係機関、関係事業者、区民代表等の参画を得た会議体を設置します。また、検討のプロセスの各段階で適切に区民意見の聴取と反映を行います。

小学校の改築方針や、公共公益施設の整備方針は、まちづくり基本計画やまちづくりガイドラインの内容を踏まえ、区が主体となり検討を進めてまいります。

※ミッション2（教育環境の確保・充実）、ミッション3（公共施設の効果的効率的な更新策の検討）は、次回の検討会で議論を行い、まちづくり基本計画では課題整理まで行う予定です。

3. シナリオ別評価表（ミッション1）について

- 第5回検討会までに整理してきたシナリオ別評価（ミッション1）について、第5回検討会のご意見や提出していただいた意見シートの内容を踏まえ、一部見直しを行いました。（別紙1）
- 見直しを行った主な内容は以下の通りです。
 - 「赤羽小学校や赤羽商店街を含めた赤羽の顔が、あまりよく評価されていないように感じる」というご意見をいただきました。
 - ⇒（3）①赤羽の玄関口にふさわしい顔づくり
シナリオ1, 2で、「赤羽小学校や赤羽駅前の商店街を含めた現在の赤羽の顔が維持される」と追記しました。
シナリオ3, 4, 5で、「現在の赤羽の良さを踏まえた、新しい赤羽の顔づくりができる」と追記しました。
 - 「文化的なことや歴史的なことの部分では、観光物件など古くなるからよくなるものがある、逆に、古くなるから現状維持は衰退と考えるものもある。（両面での評価が必要）」というご意見をいただきました。
 - ⇒（3）①赤羽の玄関口にふさわしい顔づくり（上記の通り対応）
 - ⇒（4）①都市機能の導入（商業）
シナリオ1, 2で、「個々の商店が活躍できるまちとしてにぎわいが維持される」と追記しました。
シナリオ3, 4, 5で、「周辺区域を含め、個々の商店が活躍できる環境整備が課題」と追記しました。
 - その他、評価に関するご意見への対応
⇒シナリオ1と比較してシナリオ2で評価できる部分を改めて評価しました。
（例）（1）②周辺区域含めた災害対応力の向上（地震・水害）
防災に資するオープンスペースの確保は困難→小規模共同化による空地の確保は可能
緊急時の垂直避難施設の確保は困難→土地の有効利用や共同化の規模により垂直避難に資する対策は可能

4. 今後の進め方等について

これまでの議論の経過のまとめの報告

- 日時 令和6年（2024年）
 - ①12月15日（日） 15時～21時
 - ②12月16日（月） 15時～21時

■場所 赤羽会館 4階小ホール

■内容 これまで検討会で議論してきた内容を説明するパネル展示と合わせ、ご来場された方に、担当者がご説明させていただき、ご意見と伺うオープンハウス形式の説明会を開催します。